第１３回総合海洋政策本部参与会議　議事概要

◆日　時：平成２５年７月３日　１２：５５～１４：００

◆場　所：官邸４階大会議室

◆議事概要

１．開会

２．プロジェクトチームの設置について（資料 1）

事務局よりプロジェクトチームの設置について説明が行われ、引き続き、質疑が行われた。

【参与の発言は〇、事務局の発言は●】

○ PT のテーマや方向性をはっきりさせてから適切な外部有識者の選定を行うべき。

○ フォローアップのあり方 PT は、各事業の構想、予算の決定・執行が海洋基本計画に沿っているかどうかを見る、その手法等を検討するのではないか。もし予算、執行等を他 3 つの PT でやるのなら、各グループで進捗をモニターしていくという理解でよいか。

○ フォローアップのあり方 PT については、他 3 つと同時並行で進めながらリアルタイムで見ていくことと、その結果を事業の評価、修正に反映させることも含むという理解でよいか。

○ 事務局機能の充実も必要。部分最適に陥らないよう、事務局が、参与会議、各 PT の総合調整、企画機能について事務局が考え方をしっかり持っておく必要がある。

● PT については、基本的な考えはそのとおり。フォローアップそのものは参与会議本体で行い、そのための材料、評価の仕方、その他ルール作りを議論していく。また、事務局の体制については、引き続き進めながら考えたい。同時並行については、参与で話し合って、次の段階を決めていくことにしたい。

○ 数少ない有識者があちこちで同じような会議をしているので、他の会議とも連携し、無駄なく議論を進めていくべき。

○ この 4 つの PT の対象期間はどのくらいか。

● フォローアップ在り方ＰＴ以外の３つのＰＴについては、今年度末を目途に一旦まとめる予定。緊急的に提言したい事項が発生すれば、随時行う。

○ PT 内で計画の作成のような実戦部隊的なことをするわけではなく、軌道修正の提案等について 3 つの PT 中でそれぞれ議論していくということではないか。

● 事務局としては、PT ごとに、関係する省庁と連携・調整しながら、省庁からもしっかりとした出席者を出してもらおうと思っている。

○　海洋調査・海洋情報の一元化 PT について、効率的な調査のための機関間での計画の調整やデータポリシーの作成が課題の一つ。また、海洋データの中には、宇宙（衛星）から取得するものも多数あるため、宇宙との連携も重要である。
○　例えば MDA（海洋監視）について、米国は海洋監視にとどまらず、資源探査やテロ対策など、包括的に幅広い分野として捉えているが、日本では監視のみにとどまっており、限定的に捉えており、「情報の一元化」の観点ではずいぶん異なる。宇宙（衛星）からの情報を利用するため、宇宙と海洋の双方の関係者が意見交換することも必要である。
○　海洋と宇宙の連携は重要な課題である。また、情報の一元化というと日本ではサイエンスを考えがちだが、アメリカでは、サイエンスも政策的情報も全部一体であるはずであるというのが当然と考えられている。その意味では日本は立ち遅れている。政策的情報の一元化についてはフォローアップ PT にて議論を深めて頂きたい。
○　ここまでで、4 つの PT のイメージができてきたと思うので、この方向で今後進めていきたいと考えている。意見は一致してきたので、各 PT で取り入れていってもらいたい。

３．報告事項　海洋国家基幹技術の推進（資料 2）

文部科学省より海洋国家基幹技術の推進について説明が行われ、引き続き、質疑が行われた。

【参与の発言は〇、各省の発言は●】

○　産官学のとりまとめ等は、どこが主体となって行うのか。あるいは、国として、戦略室的なものを作るのか。
●　各省がそれぞれの役割を分担して取り纏めていく
○　各省庁に横串を通す目的で、関係省庁から関係者を集めてきたチームを組織することは検討されていないのか。
●　各省庁で事業が重複しないように検討していく。それでも懸念は残るかもしれないが、調整していきたい。
○　（安全保障以外でも海に関するかなりの情報を持っている）防衛省が入っていない。何かの意図があってのことか。
●　特に意図はない。今後相談して決めていきたい。
○　説明された資料が単なる PDF として公開されているだけならば、海洋基本計画との関係などが分からず課題である。他の施策との関係性や、どこまで議論したかの情報にハイパーリンクなどを利用してすぐにアクセスできないのでは情報公開にならない。そうできるようにしようとこの場で提言しており、それに沿ってもらわないと困るのだが、そこはどうお考えか。
●　現時点では、検討会のレポートと議事録を公表している、という段階である。各省

全体にまたがることなので、3 省で今後検討させてもらう。

○ 資料に出てくる、「～～システム」は、要素 1 つ 1 つの研究なのではシステムではない。全体としてどう動くか、というのがシステムなので、そこも議論してもらいたい。

○ この検討の過程では、各省庁のプロジェクトがある中で、技術面で、必要なものとその現状、これからの実現可能性等を議論したと承知している。ある技術がどのように他の政策・計画と連携していくのか、その関連性を可視化できるようなデータの体系化が必要。取組が進んでいる部分もあるが、全体を俯瞰したプロジェクトの体制づくりはこれから。ただ、国家基幹技術としてやるべきことのリストアップができているところは評価できると考えている。

○ ここで言うプロジェクトというのは、どちらかというとプログラムのようなもので、その下に様々なプロジェクトがぶら下がっていて、それらを統合的に掌握し、進捗をフォローするということでよいか。

● これから、どういう形でプログラムを作っていくべきか枠組みを作った段階で、ターゲットや、必要な技術等はまだこれからの課題である。

○ 各省庁が役割分担することが重要なので、ぜひその議論をしていただきたい。また、基本計画よりも抽象化されている事項が多いが、ターゲットをより具体化したシナリオにすべき。

○ 海洋資源調査システムというと、鉱物資源以外も含むように見える。また、調査海域として EEZ 内を想定しているようだが、これだけ大掛かりな探査・環境配慮を行う計画なら、EEZ に限らず、最初から公海をターゲットとしてもよいのではないか。

○ 資料の P3 は、ポータルサイト的な入口になりうる。基本計画案に沿っているのなら、どこにどれだけの資源が割かれ、この中でやることは何なのかを明確にすべき。抽象度を下げたものを見せないと、基本計画との関係が見えてこないので、それが見えるようにしてほしい。

○ 基本計画がどのようにして国としてサポートされ動いていくのかを評価していきたい。これは基本計画が動き始める時の約束である。例えば、資料の P3 の全部が実施されれば良いが、実際はそうではなく、この中の一部が実施されていくことになるので、そこが見えるようにしてほしい。要は、情報技術を十分活用すべし、ということだ。

４．閉会

以上